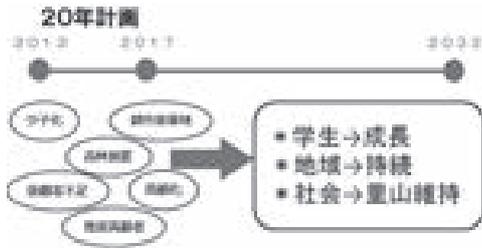


# 活動発表

① 京都Xキャンプ美山  
 発表者：戸田絵里さん

京都Xキャンプ美山は、関西のさまざまな大学の学生で構成された団体で、長期休暇を利用して農村部に滞在し、各々の得意分野を生かした地域振興活動が行われています。

発表では、単年度でのプロジェクトや一過性のイベントで終わらないよう、立ち上げから10年を見通して地域と学生のつながりを構築し、その後の10年で社会に出たOB・OGが再び活動に加わり、現役学生や地域に知識や経験を還元することで継続的な地域活性化を行う「20年計画」について説明いただきました。



20年間で、地域に存在するさまざまな課題の解決を目指します。

② ベニヤマボタニカル  
 発表者：上村将輝さん  
 松島絢香さん

ベニヤマボタニカルは佛教大学の学生によって構成された団体で、若者世代をターゲットにPR活動を行うことで、地域の魅力により多くの人に知ってもらい、美山町の交流人口を増やすきっかけづくりを目的に活動されています。

地域住民の方から施設や名所、イベントの取材を行い、動画を作成するまでの経過と今後の展望を説明された後、実際に動画サイトに掲載されている映像が紹介されました。



検索で視聴できます。

③ ワークキャンプin美山  
 発表者：中森俊さん（OB）  
 浅野円香さん

知井地域で行われるワークキャンプに参加する学生の立場から、キャンプのスケジュールや地域の

方と協力することの意義、草刈りや側溝の泥上げ、雪かきなど、季節ごとに地域で取り組んだ共同作業の内容と取り組みの感想、住民との交流事業の概要について発表。昼食交流サロンや休憩時の何気ない会話など、住民との交流が学生にとっても楽しみであるとのことでした。

## ワークショップ

佛教大学の大東貢生准教授の進行の下、市内在住者と学生が9つのグループに分かれてのワークショップを行いました。

市内在住者のグループは「地域活動で学生に望む力」、学生のグループは「地域で取り組みたいこと」をテーマに、意見交換と発表を行いました。

市内在住者のグループからは、「まず地域の特色や課題について知ってもらい、その上でアイデアを積極的に提案してほしい」など、コミュニケーションを取る中で徐々に地域に入ってほしいとの意見が多く出されました。

学生グループからは、地域の新たな魅力づくりについて、「地域からSNS（※）を活用した情報発

信や、大学・企業と連携しての商品開発ができないか」などの提案がありました。

また、「お互いの声を聞くことができる場所や機会があればよいのでは」との声が共通して出されました。

最後に、大東准教授から講評として「地域在住者と学生それぞれの立場から地域への思いを聞くことができた。こうした取り組みから、新たな活動が生まれてほしい」と、今後の学生と地域との連携に期待を寄せられました。



知井地域での雪かきの様子



学生チームによるワークショップの様子

※ SNS：Facebookなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス